

5 学年の実践記録

(1) 主題に迫るための具体的な手立て

〔手立て1〕

- ・ 第3・4学年の総合的な学習の時間で調べたことや、理科で学んだことを振り返り、「大蔵川」について知っていることをウェビングし、出し合い、大蔵川の水質に対する課題意識をもたせる。
- ・ 水質調査の結果をまとめる際に、算数科や社会科で学んだことを生かして、グラフや写真・地図等にまとめさせるようにする。

〔手立て2〕

- ・ 水質調査のまとめを基に、グループで大蔵川のよさや問題点を話し合う。個々の意見を視覚化できるように、付箋・ホワイトボードを使って整理・分析を行う。全体で出された意見を整理したり、関連付けられるものを線で結んだりしてまとめる活動を通して、大蔵川のよさや問題点を再認識させたり、大蔵川について調べてみたいことを書いたり発表したりして、大蔵川についてさらに探っていこうとする意欲をもたせる。
- ・ 国語科の学習を生かし、自分たちが調べた「大蔵川のよさ」や「地域の方の思い」を地域の方に伝える方法を考えたり、調査内容が「大蔵川のよさ」を立証できるものであるかどうかを、友達と協同で整理したり分析したりし、意見を出し合い、検討していく。
- ・ 地域の方に発表し、大蔵川のよさについて話し合ったり、賞賛してもらったりすることで、地域に対する愛着の気持ちに気付くことができるようにする。

〔手立て3〕

- ・ 自分たちが考えたアイディアの中に、大蔵のまちの一員としての愛着の気持ちを表現できるようにし、評価に生かす。
- ・ 単元のまとめの段階では、個人ファイルや作品等でこれまでの学習を振り返ったり、学習を通して学んだことをカードにまとめ、これまでに書いた自分のカードの内容と比較したりし、大蔵川に対する自分の見方や考え方の広がりや深まり、思い等の変容や自分の成長を実感できるようにするとともに、地域の一員として大蔵川を「ふるさとの川」としてかかわっていくことの大切さを感じ取ることができるようにする。

(2) 研究の実際と考察

〔手立て1〕

単元の導入に際してまず、4年生の総合的な学習の時間で学習したことや大蔵川について知っていることを振り返り、ウェビングを作らせた(資料1)。ウェビングの項目からホテルを取り上げ、6月のこの時期にしか飛来しないホテルへと



資料1 児童が作成したウェビング

関心を向けさせた。次に、大蔵川のホテルを鑑賞したときの写真を提示したり、環境部会便り



資料2 環境部会便りとホテルを鑑賞した時の写真

を通して、環境部会長の土佐野さんの思い(鑑賞会を開かなくても、家族と一緒にホテルを見に行してほしい。)を紹介したりした(資料2)。その後、ホテルを鑑賞した感想を出し合い、全体でまとめながら大蔵川の水質に目を向けさせていった。このことにより、「ホテルがいる大蔵川の水質は本当にきれいなのか調べたい。」という協同で解決する

課題が設定された。

資料3 水質調査の結果をまとめたもの





水質調査後、結果をまとめるにはどうしたらよいか尋ねた。すると、「棒グラフで表すと、生物がどれだけ見つけられたかすぐ分かる。」「指標生物のランクごと（きれい・汚い）に棒グラフの色を変えると分かりやすいと思う。」など算数科で学習したグラフのことや、昨年度までの総合的な学習の時間で学んだまとめ方などを生かして、各グループごとにまとめることができた（資料3）。

〔手立て2〕

【調査結果を基に、大蔵川のよさや課題について話し合う場面】

水質調査の結果から気付いた大蔵川のよさと問題点を出し合い、大蔵川の何を調べていくか焦点化させていった。そして、大蔵川を調べる計画を立てていった。以下がそのときの様子である。

学習活動	教師の発問と児童の反応（教師：T，児童：C）
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p style="text-align: center;">めあて</p> <p style="text-align: center;">上流と下流の水質調査を基に、大蔵川のよさと問題点を話し合い、整理しよう。</p>	<p>T：前回までに、大蔵川に調査に行き、グループで水質調査の結果をまとめていきましたね、今日は、実際に川を調査して気付いたことから、大蔵川の「よさ」と「問題点」をまとめていきます。では、めあてを読みましょう。</p>
<p>2. 2つの資料を比較し、よさと問題点を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでまとめる。 	<p>T：各グループ話し合いを始めましょう。</p> <p>※ 付箋紙を使って班ごとによさと問題点をまとめる。</p> <p>C：準絶滅危惧種の魚がいることはいいところだと思う。</p> <p>C：生き物がたくさんいることもよさだと思う。</p> <p>（整理する段階で）</p> <p>C：「準絶滅危惧種の魚がいること」と「生き物がたくさんいること」は一緒にしてもいいと思う。</p> <p>C：いや、一緒にしてはいけないと思う。だって、全部が全部準絶滅危惧種じゃないから。</p> <p>C：問題点は何と考えますか。</p> <p>C：ごみが多いこと。</p> <p>C：少しきたない所に棲む生き物がいること。</p> <p>※ 話し合い後、短冊に班で出た意見を書く。</p>
<p>3. グループで話し合った結果を全体で確かめ、整理する。</p> 	<p>T：グループでまとめた大蔵川のよさ、問題点を発表しましょう。</p> <p>C：僕たちの班ではよさが3つでした。きれいなところに棲む生き物がいることと、下流の水がきれいなことと、準絶滅危惧種の魚がいることです。問題点も3つ出ました。雨の時、水の量が多いことと、少し汚い所にいる生き物がいることと、ゴミがあることです。</p> <p>（略：残りの6班も同様に発表していく。）</p> <p>T：発表を聞いて、どう思いますか。</p> <p>C：問題点が多い。同じ意見が多い。</p> <p>T：もう少し整理できそうですね。</p> <p>C：水の量、にごり、草、ゴミに仲間分けする。</p>



C: 水が汚いからヒルがいると思うから、水が汚いとヒルはつながると思います。

T: だいが整理できましたね。じゃあよさも整理できるかな。

C: クリーン作戦をしているから、水がきれいになると思うから、つなげてもいいと思います。

C: 付け加えます。きれいな水だから、準絶滅危惧種の魚がいたり、きれいなところにいる水生生物がいると思います。

C: 自然がいっぱい？

T: これは、どこのグループかわからんね。

C: きれいだから自然がいっぱいだと思う。

C: 僕は、きれいな所に棲む水生生物と自然がいっぱい関係ないと思う。

T: よくわからないから、調べてみるといいですね。

T: なぜ、クリーン作戦をしていると思いますか。だれがきれいになりたいと思ったんかね。

C: 汚い時期があったから。土佐野さん。

T: 地域の人ってということだね。

C: 大蔵川を守る会があって、大蔵川をきれいにして未来に残したいと思っている。

T: 地域の人も大蔵川を守っていきたいと思っているんだね。次は、これからどんなことを学習したいか話し合ってください。

様々な個々の児童の疑問などを付箋紙を使い、関係があるものは線でつないだり、考えられる原因などは書き加えたりすることで、多くのよさや問題点を焦点化することができた。このように、学習の目的に合わせ、集めた情報や様々な意見を整理したり分析したりする学習を位置づけることで、児童の思考を高めていくことができたと考える。

【調査内容が「大蔵川のよさ」を立証できるものであるかどうかを、友達と協同で整理したり分析したりし、意見を出し合い、検討していく場面】

まず、自分たちが調べた「大蔵川のよさ」や「地域の方の思い」を地域の方に伝える方法を考えた。話し合いの結果、地域の方が目で見たり耳で聞いたりしてわかりやすい「壁新聞」を作成して伝えると分かりやすいという意見が多く出されたので、壁新聞を作ることにした。

次に、調査内容が「大蔵川のよさ」を立証できるものであるかどうかを、付箋紙を使って、友達と協同で整理したり分析したりし、意見を出し合い、検討していった。資料 4 は、話し合った結果を盛り込んだ壁新聞である。



資料 4 友達と協同して作った壁新聞

【地域の方に大蔵川のよさを発表し、大蔵川のよさについて2つの視点で整理し、大蔵川のよさを話し合う場面】

自分たちが調べた大蔵川のよさ、GTと一緒に活動したりインタビュー活動をしたりして感じ取った「地域の方の大蔵川に対する思い」、「自分たちの大蔵川に対する思い」を壁新聞としてまとめ、地域の方(これまでお世話になったGT)に発表した(資料5)。発表が終わった後、GTの方に調べたことを称賛してもらったり、「未来まで大蔵川のよさを守ってほしい」と話してもらったりしたので、次時からの児童の学習活動が「未来」の学習へスムーズにいったのではない



資料 5 地域の方へ大蔵川のよさを発表する児童

かと考える。

地域の方に「大蔵川のよさ」を発表した後、「自然環境・自分や地域の人の思い」の2つの視点から大蔵川のよさの妥当性を考えるためにみんなで学び合った。

資料6 大蔵川のよさを全体で話し合ったときの発問(T)と児童の反応(C)

T: みんなが出してくれたよさは、つながりはないですか。まとめられるものはないかね。

C: 「いろいろな植物がある」と「いろいろな生き物がいる」はつながる。

T: どうしてつながるの。

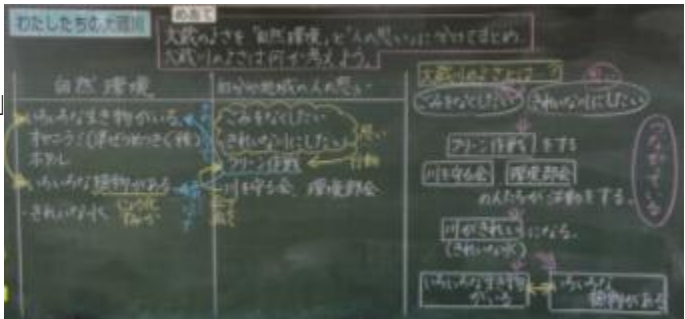
C: 理由は、植物グループの発表を聞いて、植物が川の水をきれいにしたり、生き物の隠れ家になったりするからです。

C: 「ごみをなくしたい」「きれいな川にしたい」とクリーン作戦はつながる。理由はごみを無くしたいとか、きれいにしたいからクリーン作戦に参加するからです。

C: K君につけくわえで、「川を守る会」も「ごみをなくしたい」「きれいな川にしたい」につながると思います。

C: 「クリーン作戦」と「いろいろな生き物がいる」「いろいろな植物がいる」もつながると思う。理由は、川がきれいになるから、いろいろな生き物や植物がいると思うからです。

T: では整理しましょう。「ごみをなくしたい」「きれいな川にしたい」という気持ちから「クリーン作戦」をしたり、「川を守る会」「環境部会」の人たちが活動をしたりする。「クリーン作戦」によって、「川がきれい」になる。「川がきれい」になるから、「いろいろな生き物いる。」「いろいろな生き物がいる。」ためには、「いろいろな植物」も必要。いっぱい大蔵川のよさが出てきたけど、みんなつながっているんだね。



始めに、発表を聞いてワークシートに2つの視点でまとめていった。その後、出されたよさについてつながりはないか話し合った(資料6)。話し合いの前は、大蔵川のよさを1つ1つ別々に考えていたが、協同的な学び合いで、複数のよさを大蔵川の大きなよさとして考えることができた。これは、資料14の教師の「個々のよさにつながりはないですか。」という発問や「どうして」という問いかけ(下線部)が有効だったと考える。このことは、複数のよさが関連することで、大蔵川のよさが生まれていることを知らせるとともに、児童に物事を関連付けて考える見方や考え方を身に付けさせることができたと考えられる。

[手立て3]

第三次「もっと愛される大蔵川にするためには、どうすればよいか考え、発信する。」の学習では、大蔵川をよりよいものにするために自分たちにできることを考えた。そして、特別活動との関連を図り全体のプロジェクト名を「大蔵川を未来につなげ、輝かせようプロジェクト」とした。具体的なアイディアは資料7にある7つである。アイディアの中に、大蔵のまちの一員としての愛着の気持ちを表現できるようにし、評価に生かした(資料8)。

資料7 【大蔵川を未来につなげ、輝かせようプロジェクト】

- ① 環境を守るためのポスターやちらしを作る。
- ② 「大蔵川を守る会」の会員証を作る。
- ③ 「大蔵川の四季」の歌を広める・5番を作る。
- ④ かるたを作る。 ⑤ トランプを作る。
- ⑥ すごろくを作る。 ⑦ トランプを作る。



資料 8

単元のまとめの段階では、個人ファイルや作品等でこれまでの学習を振り返ったり、学習を通して学んだことをカードにまとめ、これまでに書いた自分のカードの内容と比較したりした。これらのことで、大蔵川に対する自分の見方や考え方の広がりや深まり、思い等の変容や自分の成長を実感できるようにするとともに、地域の一員として大蔵川を「ふるさとの川」としてかかわっていくことの大切さを感じ取ることができた（資料 9）。

資料 9 児童の地域への愛着や誇りに感じられる学習後の感想の抜粋

- 芳賀さんや樺さんの話を聞いて、積極的にクリーン作戦に参加し、大蔵川の自然を守っていきたい。
- ぼくたちは、川を見てもなつかしいとか、ほっとするとは思わないけど、地域の方は、ほっとするなどなごみの場であることが分かった。だから、もっときれいな大蔵川になるように、自分たちができることをしていきたいです。
- 川を守る会の人々は、みんなの大好きな大蔵川をみんなで協力してきれいにするためにできたことが分かりました。
- 私たちは、やさしくてすてきな人々が大蔵にいてほこりに思います。これからも大蔵の人々みんなが、大切な大蔵川をみんなで守っていきたいです。

(3) 成果と課題

〔成果〕

① 手立て 1 に対する考察

理科との関連や、今までの総合的な学習の時間で学習したこと振り返り、ホテルのことを取り上げ、大蔵川の水質に目を向けさせたことで、調べたい課題を明確にすることができた。また、水質調査の結果が、児童の予想とは違った結果（少し汚れた水）となり、このことは児童が「大蔵川のよさと言えるものがあるのか。」「大蔵川のよさって何だろう。」という課題を見出すことにつながり、大蔵川を取り巻く環境についてもっと知りたいという意欲を高めることができた。

水質調査の結果をまとめる際、すぐに「棒グラフでまとめたらいい。」という意見が出された。アンケート結果から約 88%の児童が教科等の学習が総合的な学習の時間に役立つと答え、教科関連のよさを実感することができた。

② 手立て 2 に対する考察

児童の様々な体験活動から得られた情報や個々の気づきを基に、互いに学び合うことを重視した。その結果、気づきや発見の共通点に気付いたり、複数の考えを関連付けたりすることができた。

また、学習の目的に合わせ、集めた情報や様々な意見を整理したり分析したりする学習を位置づけることで、児童の思考を高めていくことができたと考える。

このような探究的・協同的な学びから約 88%の児童が自分の考えが広がったと答えており、探究的・協同的な学びのよさを実感することができた。

③ 手立て3に対する考察

資料9の中には、「川を守る会の人々は、みんなの大好きな大蔵川をみんなで協力してきれいにするためにできたことが分かりました。」「私たちは、やさしくてすてきな人々が大蔵にいてほこりに思います。これからも大蔵の人々みんなが、大切な大蔵川をみんなで守っていきたいです。」など、児童は地域への愛着と誇りをもつことができた。また、全児童がこれからも大蔵のまちを大切にしたいと感じており、大蔵のよさを共有することができ、児童に地域に対する愛情と誇りを育むことができたと考える。

〔課題〕

児童が主体的に、調べたり行動したりできる時間の確保が必要である。また、児童が自ら計画したり活動したりするような場の設定と計画的な時間配分を考えていく必要がある。自然を取り扱う場合、活動計画を立てていても天候によって活動が左右され、変更を余儀なくされることも多い。GTとの連絡を含め、余裕をもった計画を立てておくことも必要である。

本単元は、70時間単元である。児童の追究意欲を持続していくために、ねらいや評価規準をふまえた、きめ細かく計画的な支援の在り方を工夫していく必要がある。

自分の考えをもつことや、友達の考えと比較したり、関連付けたりする経験を積み重ねてきてはいるが、個人差が大きい。各教科でしっかりと学力をつけ、その力が活用できるようにしたい。